

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02648

研究課題名(和文)近代ボストン美術館における日中米文化交流

研究課題名(英文)Japanese-Chinese American Cultural Exchange at the Museum of Fine Arts, Boston

研究代表者

松村 茂樹 (MATSUMURA, Shigeki)

大妻女子大学・文学部・教授

研究者番号：70229532

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：近代の米国のボストン美術館において中国・日本美術部長を務めた岡倉天心は、同美術館のために中国美術収集活動を行い、成果が高く評価されているが、その根底には知人の漢学者・長尾雨山や雨山と親しく交わった「中国最後の文人」・呉昌碩の助力があった。本研究では、岡倉の活動が中国の文人的教養に基づいた高度なものであり、ひいては、ボストン美術館を舞台とする日・中・米文化交流が重要な意義を有していたことを明らかにできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

岡倉天心の功績はよく知られているが、その功績の陰に長尾雨山という漢学者がいたことはあまり知られていなかった。雨山は、上海で呉昌碩と親しく交わることで、当時最新の学問と文人趣味を身につけ、帰国後はその教養に憧れる人を雅会というシステムを通して「書画文墨趣味ネットワーク」でつないだ。この長尾雨山が米国のボストン美術館でも大きな功績を残していたことを発掘できたことは、学術的、社会的意義があると思う。

研究成果の概要(英文)：Tenshin Okakura, who was the curator of the Chinese and Japanese art department at the Museum of Fine Art, Boston in the United States, has been acclaimed for his achievements in collecting Chinese art for the museum. It was assisted by Uzan Nagao was a Sinologist who was a friend of Okakura and Wu Changshuo was "The Last Chinese Man of Letters" who was familiar with Uzan. In this research, I was able to clarify that Okakura's activities were advanced based on Chinese literary culture, and the cultural exchange between Japan, China, and the United States, which took place in the Museum of Fine Art, Boston had important significance.

研究分野：アジア太平洋国際交流論

キーワード：岡倉天心 長尾雨山 呉昌碩 ボストン美術館 書画文墨趣味ネットワーク

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

申請者は、これまで30年にわたって、呉昌碩の研究を行っており、博士学位論文をまとめた『呉昌碩研究』(2009 研文出版)刊行後も、呉昌碩とその交流、とりわけ日本人士との関係を中心に研究を重ねて来た。そして、2015年4月より1年間、ボストン大学客員研究員としてボストンに滞在し、ボストン美術館で中国・日本美術部長を務めた岡倉天心及びその知人である漢学者・長尾雨山の中国関連事業に関する資料調査をする機会に恵まれた。

その過程で、岡倉および長尾がボストン美術館に大きく貢献していたことを明らかにできる資料を発見し、これらに基づいた研究を行うべく、科研費申請を行った。

2. 研究の目的

米国のボストン美術館には、「中国最後の文人」と称される呉昌碩の手になる「与古為徒」扁額が掛けられている。これは、当時上海在住の漢学者・長尾雨山が、ボストン美術館中国・日本美術部長であった岡倉天心に贈ったものである。岡倉は、ボストン美術館のために中国美術収蔵活動を行い、成果が高く評価されているが、その根底に長尾や呉昌碩の助力があったことを指摘し、岡倉の活動が中国の文人的教養に基づいた高度なものであったことを提示したい。このことにより、近代において画期的成果を収めたボストン美術館を舞台とする日・中・米文化交流の重要な意義を明らかにできるであろう。

3. 研究の方法

本研究は、「研究目的」に記した目的を達成するための研究方法として、岡倉天心、長尾雨山、呉昌碩を中心とする近代のボストン美術館に見る日中米文化交流に関する資料収集を行い、その分析、検討を進めた。そのため、米国・中国・日本において、図書館・美術館等での研究調査を以下のように行った。

- (1) 米国・ボストン美術館での資料調査およびボストンでの現地踏査
- (2) 中国・安吉、杭州、上海での現地踏査および資料調査
- (3) 日本・京都での現地踏査および資料調査

4. 研究成果

本研究により、岡倉天心のボストン美術館における貢献の本質を明らかにできた。とりわけ、ボストン美術館所蔵岡倉天心旧蔵漢籍39件を発見でき、研究期間中に追加調査も行って、岡倉の漢学素養形成に長尾雨山が貢献していたことを論証できたことは大きな成果であった。また、長尾が呉昌碩と交わることで得た当時最新の中国学と文人趣味に憧れた日本人士が形成した「書画文墨趣味ネットワーク」の存在意義を提示できたことは、大きな収穫であった。

そして、現地踏査によって、これまで知られていなかった呉昌碩の安吉の生誕地を特定し、そこは呉昌碩が青年時代を過ごした「蕪園」であったことを明らかにできたこと、また、長尾の京都における故居跡を突きとめたことも特筆に値すると思われる。

本研究は、近代の日中米文化交流が高いレベルで行われていたことを、ボストン美術館という舞台から論証したものであり、日中米の研究者より大きな反響があり、与えたインパクトは大きかったと思う。現在、日中米の国際関係は複雑な状況になっており、良好な国際関係樹立のための問題解決が重要なテーマとなっている。それゆえに、本研究で取り上げた、高レベルな近代日中米文化交流に学ぶべき点は多いのではないかと。



ボストン美術館所蔵岡倉旧蔵漢籍「呉興金石記」(松村茂樹「ボストン美術館所蔵岡倉天心旧蔵漢籍について」2020・2・10 『人間生活文化研究』NO.30より)



中国浙江省安吉の呉昌碩生誕地であり、呉昌碩が青年時代を過ごした「蕪園」跡（松村茂樹「呉昌碩の生誕地と「蕪園」をめぐって」2018・3・20『大妻女子大学紀要-文系-』第50号より）



京都室町通 長尾雨山故居跡（松村茂樹「長尾雨山の旧宅址を訪ねて 京都室町通と西洞院通での実地踏査報告」2018・3・22『コミュニケーション文化論集』第16号より）



京都西洞院通 長尾雨山故居跡（松村茂樹「長尾雨山の旧宅址を訪ねて 京都室町通と西洞院通での実地踏査報告」2018・3・22『コミュニケーション文化論集』第16号より）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 松村茂樹	4. 巻 2018年第4期
2. 論文標題 足未踏日本、名仍震東瀛 従与日本人士交流の角度看吳昌碩芸術の本質〔中文〕	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 紫禁城（北京故宫博物院）	6. 最初と最後の頁 132-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松村茂樹	4. 巻 下巻
2. 論文標題 河井セン廬的印学〔中文〕	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界図紋与印記国際學術研討会論文集（西レイ印社出版社）	6. 最初と最後の頁 823-830
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松村茂樹	4. 巻 第51号
2. 論文標題 吳昌碩と『吳氏宗譜』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大妻女子大学紀要-文系-	6. 最初と最後の頁 201-206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松村茂樹	4. 巻 第20号
2. 論文標題 吳昌碩の官途	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国近現代文化研究	6. 最初と最後の頁 16-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村茂樹	4. 巻 19
2. 論文標題 呉昌碩「詩文手稿冊」に見える日本人士の氏名について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国近現代文化研究	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村茂樹	4. 巻 15
2. 論文標題 長尾雨山の旧宅址を訪ねて 京都室町通と西洞院通での実地踏査報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 コミュニケーション文化論集	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村茂樹	4. 巻 50
2. 論文標題 呉昌碩の生誕地と「蕪園」をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大妻女子大学紀要-文系-	6. 最初と最後の頁 139-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村茂樹	4. 巻 中
2. 論文標題 長尾雨山与呉昌碩交誼の原点 漢長生未央磚及其題詩〔中文〕	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第五屆“孤山証印”西レイ印社國際印学峰会論文集	6. 最初と最後の頁 1305-1311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村茂樹	4. 巻 27
2. 論文標題 近代のボストン美術館に見る日中米文化交流について 岡倉天心、長尾雨山そして呉昌碩の貢献	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人間生活文化研究	6. 最初と最後の頁 603-609
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件(うち招待講演 9件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 松村茂樹
2. 発表標題 呉昌碩と日本人士(ポスター・セッション)
3. 学会等名 国際シンポジウム「山本竟山の書と学問 湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク」 関西大学梅田キャンパス (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松村茂樹
2. 発表標題 長尾雨山と書画文墨趣味ネットワーク
3. 学会等名 第四十回書論研究会大会 高松市歴史資料館 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松村茂樹
2. 発表標題 河井セン廬的印学(中国語による発表)
3. 学会等名 2018・11・15 西レイ印社世界図紋与印記国際学術研討会 杭州之江飯店 (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松村茂樹
2. 発表標題 書とは何か
3. 学会等名 第15回四国大学書道文化学会大会講演 四国大学交流プラザ (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松村茂樹
2. 発表標題 中国画はなぜ改良されねばならなかったのか？
3. 学会等名 コロキウム民国期留日美術学生と日本美術(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松村茂樹
2. 発表標題 日中文化交流研究のおもしろさ
3. 学会等名 2017年度関西大学大学院院生合同学術研究大会東アジア文化研究科講演会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松村茂樹
2. 発表標題 長尾雨山与呉昌碩交誼の原点 漢長生未央磚及其題詩(中国語による発表)
3. 学会等名 第五屆“孤山証印”西レイ印社國際印学峰会研討会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松村茂樹
2. 発表標題 長尾雨山の文化的・社会的貢献について
3. 学会等名 第3回中国近現代文化研究会大会 シンポジウム 長尾雨山と近代中国（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松村茂樹
2. 発表標題 呉昌碩 その生涯と芸術
3. 学会等名 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程芸術専攻特別講義（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考